



今月の一枚

俱会一処式でのお骨の返還（順慶寺本堂にて）

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2022年(令和4年)

10月号

VOL.348

◆◆ 四十九年ぶりの再会 ◆◆

順慶寺では、毎年、俱会一処式と銘打って、五十回忌まで納骨堂に預かっていたお骨を施主に返還し、施主により、納骨堂下部の共同墓地に埋骨していただいている。五十回忌となると、多くの施主が孫世代になるが、中には親や子供が五十回忌を迎える場合がありさまざまである。

◆ 善い行いは喜びを増幅する ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より

「行いの善い人は、この世でもあの世でもふたつのところで共に幸せである。自分の清らかな行いを見て、

かれは喜び、幸せである」(第十六偈)

「行いの善い人は、この世でもあの世でもふたつのところで共に喜ぶ。」

私は善いことをしたと思って喜び、善い境遇に生まれ、さらに喜ぶ」(第十八偈)からの出典です。釈尊は、善いことをする人は、今の状況を喜ぶことができるので、その後にも喜びの世界に生活でき、さらに喜びが増すのだと教えて下さっています。

今回の法語は、釈尊が祇園精舎に滞在しておられたとき、十四人の子供と妻を養う長老の信者のことを語ったお言葉です。十四人の子供をもつ長老は、常に戒律を守り、善い行いをするを常とし、あらゆる人に施しを与えてきました。しかし、病を得てからは、体が弱り衰弱していきました。余命幾ばくない

今月の釈尊の言葉



善いことをする人は

この世で喜び

あの世でも喜ぶ

若院のテーマカット NO.41



とき、長老は、釈尊にお願いして、十六人の弟子を迎え、『大念処経』を拝読していただきました。すると、天から天人たちがやってきて、長老を天界につれて行こうとしました。しかし、長老は、お経を続けて聞きたかったため、「帰ってください」と大声で叫びました。大した大声に天人はおろか比丘も驚いて、みな帰ってしまいました。天人も比丘も、長老が死を恐れて、大声を出したのだと思ったわけです。やがて長老は亡くなりましたが、釈尊は、長老が兜率天に往生ができて、喜びの場所に再生したことを知り、弟子たちに、善い行いをす

◆ダンマパダ(法句経) 第十六偈より

常に善行をしてきた長老が、妻と十四人の子供を遺し、兜率天に往生した話です。



るものは、この世の中でも喜ばれ、その後にも喜ばれ続けると論されたといえます。

◆欲はやがて自らを苦しめる◆

昨年夏に開催された東京オリンピックは、コロナ禍にも関わらず、閉会時には「困難な状況下でも世界に希望を与えた」とのIOCバツハ会長の言葉で閉幕しました。唯一無二と言われた、難しい状況の中での開催で、無難に大会を終えることのできた大会関係者の努力が評価された部分です。

ところが、大会を終え、大会の整理をしていくうちに、東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の高橋治之・元理事が、大会スポンサーだった紳士服大手「AOKIホールディングス」側から賄賂を受け取ったとして、東京地検特捜部に逮捕されました。そ

の後、「KADOKAWA」からも賄賂があったとか、メインキャラクターの販売でも働きかけがあったとされ、次々と疑惑が明るみに出ています。必死に運営の手助けをしたボランティアの人たちが傍目に、甘い汁を吸った人々があったことを知ると、やはりそうかとの落胆とともに、釈尊が、『ダンマパダ』で

「ものごとをすばやく処理する人が、道理に従う人ではない」(二五六偈)と指摘されたことが、頷けてきます。私利私欲に走り、多くの人のことを考えずに物事を判断する人が、すばやく決断する人と言うのだ。

私利私欲に走れば、やがて苦しみとなって自分に返り、苦しみを受けた身の上に更に批難を受ける。高橋容疑者の今を考えると、自業自得としか言えないようがありません。

仏教の世界観に現れる天界の一つ。兜率はサンスクリットのトウシタ(満足されるの意)の音訳で、観史多とも書かれる。須弥山の上空に位置し、三界のうちの欲界に属する。ただし、この天は六欲天の下から四番目にあたり、その住人は欲望の束縛をかなり脱している。七宝の宮殿に内外の二院があり、内院は将来仏となるべき菩薩の最後身の住処とされ、外院は眷属の天子衆の遊樂の場とされる。(世界大百科事典より)

②【兜率天】

①【大念処経】
マハーサテイパッターナ・スッタと呼ばれる、初期南伝仏教のパーリ仏典経蔵長部の第二十二経。釈尊が説いた、覚りへと導く、比類のない經典として人気が高い。四念処をはじめとする瞑想(正念)実践についての内容が詳述されている。
(四念処とは)
身念処ー 身体の不浄を観ずる
受念処ー 一切の受は苦であると観ずる
心念処ー 心の無常を観ずる
法念処ー 諸法の無我を観ずる



秋になると夕陽がとつてもまぶしくて山門や本堂がぴったり逆光です。どうして、お寺は西を背にしているの？



そうですね。順慶寺は、泉田町神戸の信号から見ると、山門や本堂が西に一直線に見えます。夏

場は、太陽が高く、夕暮れになっても山門や本堂に太陽が隠れるので、夕陽はあまり目に入ってきません。しかし、秋から冬にかけては、太陽が低くなつて、夕暮れ時の太陽は眩しいものです。とくに、西に向かって車を運転するときなどは、眩しいものですね。では、どうして、本堂は西を向いて

建てられているかです。これは、御本尊の阿弥陀如来が西方浄土にましますからです。よくご家庭に御内仏を安置されるときに、方向を聞かれますが、その際にも、「御本尊の阿弥陀如来が西方浄土にましますので、西に向かって御本尊を仰げるように安置してください」と言いますがそれと同じことです。

法事のおきにいただいている、『仏説観無量寿経』には、「日想観」という修法が書いてあります。西の方角に向き、心を落ち着けて自分の目で落日をじっくりと見つめ、太陽が沈んだ後は暗くなり静寂が訪れますが、まだそこに太陽があるかのように瞑想し、太陽を感じる方法です。これで、阿弥陀さまの世界を感じていきます。西に向かって手を合わせるの、それに準じた意味があります。

お寺とともに

ますます
小さい秋



このところの東海地方の夏の暑さは厳しく、残暑もすごいです。北陸育ちのものにとっては、この年々暑さが厳しくなる夏に閉口してしまいます。

そんなことを知ってか、涼しくなり始めると聞こえる、ツクツクボウシの鳴き声もあまり聞こえなかったように思います。ツクツクボウシも北の方へ避暑してしまったのでしょうか。

その上、温暖化の影響で毎週のように台風がやって来ます。進路に当たられた皆さんは、大変だったと思います。大風が吹く度、落ち葉はきが大変なので、そうしているうちに冬になってしまいそうです。

「夏の次は冬だよ！」

と、お彼岸でお寺参りされた方が話して行かれましたが、妙に納得してしまいました。

日本の秋は、今は昔。お彼岸に咲いた彼岸花に思わず話しかけてしまいます。



第三十回 サンスクリット語

最近、經典を読み進めていく過程でサンスクリット語を調べるようになりました。すると以外にも日常で使う日本語にもサンスクリット語が由来のものが多くある事に気づきました。

アバターや旦那、摩訶不思議の「摩訶」など、聞きなじみのある言葉です。数千年も前に他国で生まれた言葉が現代日本につながっている、という事実には感動してしまいました。

祠堂法要・俱会二処式開催

リモート席も活用し参詣者を迎える

さる9月12日、順慶寺にて祠堂法要と俱会一処式が開催されました。

当日、秋風を感じる日和となり、大勢の人が順慶寺に参詣されました。

法要は、午前中のみ日程。はじめに祠堂法要(過去五十年間に祠堂があった方の法要)がありました。住職他の僧侶が読経する中、本堂前に三つ置かれた焼香台(一つは立焼香)で参詣者が焼香しました。

裏に着席できるように段取りをしまして、書院と庫裏は、本堂の映像をリモート配信したりリモート席でしたが、本堂に入りきれない参詣者が、着席されました。リモート席に着かれた皆様も、焼香の時には、本堂の参詣者が終了した後、本堂の焼香台にて焼香していただきました。

読経と焼香が終了してから、俱会一処式を執行しました。俱会一処式は、順慶寺の須弥壇納骨や納骨堂に納骨された方の中で、五十回忌を迎えられた方へのご案内。案内があった方の三分

の二ほどの方が集まられ、名前が呼ばれると本堂に一時移されたお骨を受け取り、お骨を抱きながら、参詣者全員と正信偈を唱和しました。その後、お骨を受け取られた方は、納骨堂に移動し、各自、納骨堂下部に埋骨をしていただきました。

コロナ禍の中でも、リモート席を設けて沢山の方が集まられた様子を見られた、三年ぶりに法話をさせていただいた、伊奈祐諦先生は、こうした法要は初めてですと驚いておられました。

今回もお斎は、弁当となりましてが、お斎にはお勝手会の八名が腕を振るって下さり、立派なお寿司弁当ができました。

◎奇進・白米二斗 今川西 塚本敬様

祠堂法要写真館



伊奈先生の法話



俱会一処で納骨に埋骨



書院のリモート席



島田警部補によるオレオレ詐欺講座(寺カフェにて)

9月度護持寺会物故者

清雅院釋尼妙倉

9月3日寂 横山くら子(73)

山ノ端組 横山幸司様の母

恭循院釋觀和

9月6日寂 岡川和利(68)

泉田町 岡川信行様の弟

源性院釋正受

9月10日寂 神谷正治(80)

市場上組 神谷英俊様の父

3名の順慶寺護持寺会員の
方が生前の役割を終えら
れ、浄土におかえりにな
られました。合掌

編集部短信

◆寺カフェで「オレオレ詐欺」講座

さる9月1日、第一回寺カフェ講座と題して、刈谷警察署から島田警部補を講師に「オレオレ詐欺」講座が開かれた。二十名ほどの寺カフェに集まった方が、本堂で熱心に講座に聞き入った。写真は上部に掲載。

◆同朋ゼミ開講

さる9月15日、順慶寺本堂にて第一回同朋ゼミが十二名の参加で開催された。住職より同朋ゼミの趣旨が説明されオリエンテーションがなされた。以降、ゼミは隔月で奇数月の15日に開催の予定。

◆老人会追弔会を開催

さる9月20日、泉田町の老人クラブ主催の追弔会が開催された。当日、台風14号が通過した直後で、開催が危ぶまれたが、朝には晴天となり予定通り開催された。物故者二十一名の家族による焼香、住職の法話があった。

編集雑記

このところの温暖化で、台風が強力になり大型化していますので、今後、日本の国土に大きな影響がでるの懸念されます。先に、泉仏教会の理事会に出席したところ、市によって災害時の避難場所として寺を指定するケースがあると聞きました。理事から、寺は畳があり避難場所としては最適だが、防災設備を完備するのは難しいとの意見も出ていました。やはり寺が防災に貢献するのは簡単でないと思われました。(住)

夏休みも終わり、大学院での講義が始まりました。大学までは車で移動しているのですが、最近はその車中で法話を聞いています。YouTubeなどで気軽に視聴できるので、皆さんも聴いてみてはいかがでしょうか。(若)





10月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	土	寺カフェ (9:00~11:00、順慶寺本堂南落間にて)	
2	日	助音講① (19:00、順慶寺本堂)	
3	月	おたのしみ会 (14:00、順慶寺本堂)	
4	火		
5	水		
6	木		木-1
7	金		
8	土	公開講座 (14:00、順慶寺本堂)	
9	日		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		木-2
14	金	総代OB会総会 (13:30、順慶寺本堂)	
15	土	順慶寺こどもかい (9:00、順慶寺本堂)	
16	日	助音講② (19:00、順慶寺本堂)	

17	月		
18	火		
19	水		
20	木		木-3
21	金		
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		木-4
28	金	宗祖聖人御命日 (7:00、順慶寺本堂)	
29	土		
30	日		
11/1	月	寺カフェ (9:00~11:00、順慶寺本堂南落間にて)	
11/2	火		
11/3	水		

編集・発行人 池浦裕哉
印刷・発行所 順慶寺内

真宗大谷派順慶寺

郵便番号 四四八-0004
愛知県刈谷市泉田町池之浦三

連絡

電話 〇五六六(三)九九四
FAX 〇五六六(六)五六三

郵送

郵送料毎月百円(年間千二百円)
振替 〇〇八三〇〇一六二六九

会員

護身会員には五百円にて
一年間郵送をいたします。

インターネット

URL: <http://www.junkyoji.com/>
E-MAIL: support@junkyoji.com

10月行事内容 詳細

公開講座

10月8日(土)

午後2時

順慶寺本堂

講師 東大文学部教授 牧野篤氏



牧野篤先生

令和元年以来、三年ぶりに公開講座を開催します。今回の講師は、教化検討委員会でもアドバイザーになって頂いた、東京大学大学院教授の牧野篤先生。

牧野先生は、刈谷市天王町のご出身で、泉田町育ち。地元の富士松南小学校、富士松中学卒業。名古屋大学教授から東京大学教授に就任されています。専門は教育学。とくに、生涯学習に力を入れておられ、社会福祉事業の一環として、各地の村おこしなどの手伝いやアドバイスをされています。寺院関係では、東京・芝の増上寺などの改革にも助言されています。大変お忙しい中、順慶寺のアフターコロナへのアドバイスも兼ねて、今回のご縁となりました。

お知らせ

●帰敬式受式者募集について

十一月に予定されている当山報恩講の初日に、三年に一度実施している帰敬式(お剃刀の儀)を実施します。昨年、コロナ禍で実施を見送りましたので、四年ぶりの帰敬式となります。護国寺会員の皆様には、ご案内を封書にてお報せいたします。

●10月からお取越はじめます

10月中旬より、順次各地のお取越(在家報恩講)を開始いたします。

●本山報恩講団について

本年11月21日、岡崎教区二十一組門徒会主催で、本山報恩講への団体参拝が実施されます。参加希望の方は、本堂に参拝申込書を置いておきますので、申込期限(10月20日)までに料金を添えて、順慶寺まで申込ください。

読書の秋

じゅんこのときめき歳時記

みなさん、お彼岸が過ぎると、少し過ごしやすくなりました。ようやく、クーラーがなくても寝られるようになって、体調も万全になって、食欲も出てきました。でも食べ過ぎは体に悪いので禁物です。

秋になると、夕方になるとあっという間に日が沈んで、夜が長いですね。皆さんは、どのように過ごしていますか。私は、このごろ、本を読むのが好きになって、夜になると毎日本を読んでいます。下宿ではテレビはほとんど見ませんので、意外と集中できるんですよ。ところで、秋に読書をする習慣は、

古くからあるわけでないようですが、夏目漱石が『三四郎』で中国唐代詩人韓愈の漢詩から「燈火親しむべし」という部分を引用して、夜長に読書という習慣が出来たそうです。

雁鳴くや

秋ただなかの読書の灯

飯田蛇笏

